

# 第2部 都立高校改革の目指す方向

## 1. 日本の未来を担う人間の育成

- ・都立高校は、社会の様々な分野でかけがえのない存在となることを目指す人間を育成します。

### かけがえのない存在となることを目指す教育の実現

- \* 一人一人の豊かな個性と創造性を伸ばします

個性や創造性を一層伸ばします  
国際協力事業団、ユニセフ親善大使等の体験活動を通して、志や使命感を高めます

- \* 世界の中の日本人としてのアイデンティティを育てます

日本や世界の文化・伝統に触れる機会を充実します  
外国人留学生の受け入れ等を行うことにより国際理解教育の推進を図ります

- \* 自らの生き方を主体的に決定できる能力や態度を育てます

進路指導を充実し、主体的に進路選択できるようにします  
就業体験(インターンシップ)を拡大します

#### 豊かな人間性の育成

- \* 正義感や倫理観をもち、自分と他人を尊重する精神を養います

「ボランティアの日」(仮称)を設置し、ボランティア活動を積極的に進めます  
スクールカウンセラーを配置し様々な相談に応じます  
生徒が自主的に取り組む文化・芸術活動を支援します

#### 学ぶ力と確かな学力の向上

- \* 基礎的・基本的な学力の確実な定着と、学ぶ力を育てます

学習の理解に応じた少人数指導を充実します  
生徒による授業評価を行い授業改善を進めます  
大学進学希望に応える進学対策を充実します

#### 生きる力の基盤となる健康・体力づくりの推進

- \* 体力の向上と、生涯を通じて健康を保持増進する実践力を身に付けます

健康推進に関する計画を立て、健康づくりを進めます  
体育・スポーツ活動の多様な展開を進めます  
運動部活動推進重点校の指定やスポーツエキスパートを派遣し夢を形にします

Q 「日本の未来を担う人間の育成」とは、どんなことをするのですか？

A 「日本の未来を担う人間の育成」は、今後、都教育委員会が長期にわたって進めていく都立高校教育の方向性を示したものです。都立高校で学ぶ皆さん一人一人が、社会の様々な場面や分野でかけがえのない存在となることを目指して、教職員が一丸となって、多様な取組を通して支援していきます。

Q 「世界の中の日本人としてのアイデンティティを育てる」とは、どんなことですか？そのために何をするのですか？

A 日本や世界の文化・伝統に触れる機会を充実し、郷土に対する愛着や誇りを育てるとともに、多様な文化に対する理解を深め、国際社会で活躍する日本人を育成しようとするものです。

そのため、教科等の学習とともに「文化・伝統の継承」「異文化理解」「日本文化の真髄を体験」という3つの体験を中心とする交流会を行っています。



Q 「ボランティアの日（仮称）」とは、どんなことをするのですか？

A 他の人や社会のために役立つ活動を行うことは、自分にとっても社会にとっても意義あることです。そこで東京都ではすべての学校でボランティア活動を進めるため、「ボランティアの日（仮称）」を設置します。その日にはすべての都立高校でボランティア活動を進めていきます。

新しい自分の発見や向上のために、地球や社会に貢献できるボランティア活動をそれぞれ学校が独自の取組として積極的に進めます。

Q 「生徒による授業評価」とありますがどんなことですか。また、生徒の意見は授業に反映されるのですか？

A 授業の進め方について、生徒の意見を聞きながら、授業をよりよくしていくためのシステムです。既に、一部の都立高校では、生徒による授業評価を行っています。今後、都立高校では、全校を対象に生徒による授業評価を行うことを目指して、授業評価の具体的な方法などを検討する委員会をつくります。そこで、生徒による授業評価の望ましい在り方について研究し、実施していきます。

授業評価は、生徒の皆さんにとって「分かりやすい授業」「意欲がわく授業」の実現を目指して行うものです。よりよい授業とするためには、皆さんの努力ももちろん必要です。

Q うちの子は、運動部で一生懸命頑張りたいのです。部活動を重視する学校を作る計画はありますか？

A 都立高校は、それぞれの学校が、個性化、特色化を図って皆さんに選ばれる学校づくりを行っています。部活動の活性化もその一つです。運動部の活動をより充実した内容にレベルアップした学校を運動部活動推進重点校として指定して、外部指導員を導入したり、近隣の学校との合同練習を行ったり、各学校の取組をより一層充実します。

また、高い専門的資質を有するスポーツエキスパートを派遣して、競技力の向上を目指します。



## 2. 生徒の多様な希望に応える学校づくり

- それぞれの都立高校が生徒の多様なニーズに応える魅力ある都立高校となるため、学校の特色化を進めます。
- 都立の中高一貫教育校など新しいタイプの学校を設置して、生徒や保護者の希望に応えます。
- 学区を廃止し、住所に関係なく志望する学校を受検できます。



- 普通科高校** 進学指導重点校の指定(6頁)、エンカレッジスクール(基礎・基本の学習を重視した学校)の指定(8頁)
- 専門高校** 産業高校(仮称)(19頁)、科学技術高校(16頁)など新たなタイプの専門高校の設置  
東京版デュアルシステムの導入(18頁)
- 定時制・通信制** チャレンジスクール(22頁)など、昼間も学べる定時制の独立校の整備  
インターネットを利用した通信制高校(トライネットスクール)の設置(23頁)

**Q** 普通科高校はたくさんありますが、違いがよくわかりません。

**A** 進学実績の向上を目指す進学指導重点校や、力を発揮しきれずにいる生徒が基礎的・基本的学力を身に付けることを目的とするエンカレッジスクールを指定します。また、新しいタイプ以外の都立高校でも、学校経営計画を毎年発表して、それぞれの学校の特色が皆さんに伝わるように工夫をします。

**Q** 現在の商業高校や工業高校は、これからどのように変わっていくのですか。

**A** 商業高校や工業高校は、卒業後も大学等へ進学して高度な専門性の習得を目指す学校、専門的知識・技術の習得に重点を置く学校、じっくり自分の適性を探し職業観をはぐくむ学校の3つのタイプを基本として特色化を図ります。新しいタイプの学校としては、科学技術高校や産業高校(仮称)等を設置します。

また、専門高校の先導的役割を担う学校を、リーディングコマースハイスクール等として指定します。

**Q** 定時制高校は、夜通う学校ではないのですか。

**A** 今まで、多くの定時制課程は、全日制課程と同じ校舎を使い、夕方から夜にかけて授業を行ってきました。

しかし、昼夜間定時制独立校として設置された学校は、午前部、午後部、夜間部があり、昼間の時間帯にも学ぶことができます。



### 3. 都民に信頼される学校経営の確立

- ・ 都立高校にマネジメントシステムを導入します。
- ・ 都立高校は、自ら課題を発見し、その解決に向けて改革を継続していきます。
- ・ 都立高校は、目指す学校像を明らかにし、教育活動を都民にわかりやすく説明していきます。



- ・ 具体的な目標を定めた学校経営計画の策定による、組織的・計画的な教育活動の展開
- ・ 教員のリーダーとして新たに「主幹」職を設けるなど学校運営組織の充実
- ・ 年間を通じた授業公開、学校経営計画や学校の活動をホームページに公表、公開する等、アカウントビリティ(説明責任)の向上

Q マネジメントシステムとはどのようなものですか。

A マネジメントシステムとは、計画をたて、実施し、評価を行い、改善をする仕組みです。具体的には、各学校が目指す学校像を明らかにした学校経営計画をつくり、計画にそって教育活動を行い、その評価をして、皆さんにとってより良い学校にするための改善を図ることです。

Q 新たに設けられた「主幹」職とはどのような教員ですか。

A 教頭を補佐し、教員のリーダーとして、皆さんの要望や学校の課題などに対して、学校の組織活動を適切に進行管理することを主な役割とした指導・監督権限をもった教員です。

Q アカウタビリティとは、どのようなことですか。

A 学校が、学校の教育の目標や教育課程、進路の状況などの活動を、皆さんにわかりやすく説明する責任のことです。このため、学校は授業公開や学校運営連絡協議会、学校のホームページなどを通して、学校の状況をわかりやすく公表していきます。

Q 都教育委員会は、学校の自主的な取り組みをどのように支援していくのですか。

A 学校が、生徒や保護者、地域社会のニーズに応じ、自主的に特色ある教育活動を展開することができるよう、都教育委員会は、学校の予算や人事について校長の考えが反映できる柔軟な制度に改めています。また、個々の学校の実情に応じた支援の仕方を工夫していきます。

(世界に開かれた学校を目指す飛鳥高校の授業参観と授業公開風景)



中学生や保護者、先生等が参観している「英語」のチーム・ティーチングの授業風景



フランスのボナパルト高校の留学生が受講した「日本文化」の授業公開の様子

## 4. 地域とのパートナーシップを築く学校づくり

- ・ 社会人の方に講師として都立高校に来ていただいたり、生徒が企業で就業体験を通じた学習を行うなど、地域の協力を得て、教育を進めていきます。
- ・ 公開講座の実施や学校施設の開放を進めるなど、学校も地域に貢献します。



- ・ 一級建築士、公認会計士、介護福祉士など、専門的な知識をもつ社会人の一層の活用
- ・ 保護者や地域の代表が参加して、学校の在り方について意見交換を行う学校運営連絡協議会の設置と学校評価(外部評価)の実施
- ・ 授業公開の推進

Q 学校も評価される時代だと聞きましたが、本当ですか。

A 保護者や地域の代表も加わった学校運営連絡協議会で、学校評価を行います。学校評価はすべての都立高校で行われているもので学校運営の改善に生かしていきます。

Q 志望する都立高校の授業を見たいのですが、できますか。

A すべての都立高校で通年の授業公開を実施しています。また、中学生と保護者の方を対象に日を決めて学校説明会や学校見学会を行っていますので、希望の学校に問い合わせてください。

Q どのような公開講座が行われていますか。

A パソコン講座、文学歴史講座、語学講座、テニス教室など、全都立高校で、様々な講座が行われています。  
毎月発行される「広報東京都」や都教育委員会のホームページでご案内しています。



### 大 山 高 校 と の 出 会 い

2年前の初冬、当時中3の息子の進学先を考えるために大山高校を訪ねました。下校時刻で、授業を終えた生徒が次々と校門から出てくる所でした。一部、髪の毛がお花畑のような子もいましたが、一様にその表情は明るく、下校指導している先生との対話にも温かいものを感じました。

この時見た光景の印象は、息子が入学後も裏切られることなく、楽しく伸び伸びとした高校生活を送っています。先生方は一人一人の生徒にやさしく接し、耳を傾け、根気強く指導してくれ、息子は自信とやる意

欲を以前にも増して身に付けることができました。体育祭や文化祭などの行事も生徒の自主性を尊重し、大変な盛り上がりようです。

入学時は消極的な姿勢が目立つ子が目に付きましたが、習熟度別の授業や少人数授業、進路に合った多様な選択科目などで自分に自信をもつようになっていきます。都立高校の改革が、それぞれの子に合った教育の場を提供されていることを確信しています。

大山高校PTA会長 星 維子

## 5. 少子化時代の質の高い教育の場の確保

- ・学校を支える一人一人の教員の資質向上に努めます。
- ・ホームルーム定員の改善を進めます。
- ・安全な学校とするため、校舎の耐震補強を進めます。
- ・都立高校のPRを進めていきます。



- ・初任者研修、10年経験者研修、主幹研修、教育管理職(校長・教頭)研修など教員のライフステージに応じた研修の実施
- ・全日制課程の職業に関する学科(工業科・商業科・農業科・家庭科・水産科・併合科)のホームルーム定員35人の実現
- ・すべての都立高校が一堂に会する、中学生及び保護者に対する合同説明会の実施
- ・都立高校の教員が小学校・中学校を訪問して授業を行ったり、中学生が高校で授業を受けたりする「小中高 夢のかけ橋(仮称)推進事業」

**Q** 教育内容が変わっても、実際に指導する先生の教え方が大切だと思います。魅力ある先生を育成するために、どのような取り組みを行っているのですか。

**A** 教員の資質の向上等を図るために初任者研修、10年経験者研修、教科等の研修をはじめ、様々な研修を行っています。また、校内研修や自主研修も進めます。

**Q** 興味のある都立高校のことを知りたいのですが、どうすればよいのでしょうか。

**A** 15年度からは、すべての都立高校が学校経営計画をつくって公表します。ホームページの開設も進めていますので、参考にしてください。また、各学校が行う説明会や見学会もご利用ください。

なお、都立高校一覧は、40～42頁にあります。



### 輝きを増す都立高校

今、都立高校は大きく変わりつつあります。都立高校の改革の一つに保護者の声を聞き改善を図ろうとする学校の姿があります。本校PTAでは「学校完全週5日制で進学指導はどうなるの」「勉強と部活の両立は？」などについて対策を求める声があがりました。従来の「国公立大学を目指す」という進路指導方針を堅持しつつ、本校の伝統である“学習も部活動も行事も”を守っていくためにどうしたらよいか、保護者、先生がそれぞれ真剣に考え、協議した結果、先生方と外部講師による「土曜教室」を始めとする様々な取り組みが実現

しました。

また、これから入学して来る子どもたちが中学校で学んでいる内容も先生方によって詳しく検討され、指導プログラムも多岐にわたって準備されています。

小・中学生の保護者の皆さん、“百聞は一見に如かず”是非改革の進む都立高校見学にいらしてください。輝いている子どもたちの姿に改革の目指すところを感じていただけたらと思います。

青山高校PTA会長 村上 真幾子